

令和4年度事業報告書

I 法人の概要

1 学校名・課程

上板橋看護専門学校 看護専門課程 2年課程昼間定時制

2 設立の目的等

- ・設立の目的 教育基本法及び学校教育法に従い、私立専修学校を設置し、学校教育を行い、地域医療に貢献しうる有能な看護師を育成することを目的とする。
- ・教育理念 設置主体である医療法人社団慈誠会の精神である「命を尊び、人間としての喜び、悲しみ、苦しみを感じ取り、人を愛し思いやる心」を基本としている。このことを基盤として、人間形成の追求と地域社会に貢献し、国際社会に対応できる専門職業人として基礎的な知識、技術、態度を学び、看護実践に必要な統合力を身につける。

3 学校法人の沿革

平成21年3月31日 学校法人設立認可
同年同日 上板橋看護専門学校設置認可
平成21年4月8日 開校式、第1回入学式開催
令和5年3月7日 第12回卒業式開催

4 学校・課程の入学定員、学生数の状況（令和4年5月1日現在）

	定員数	現員数
上板橋看護専門学校・看護専門課程	1学年 40名	80名
	(総定員 120名)	

5 役員・教職員の概要

(1) 役員	・理事	7名		
	・監事	2名		
(2) 評議員		18名		
(3) 教職員	・専任教員	9名	その他教員	37名
	・専任職員	3名	その他職員	2名

II 事業の概要

1 当該年度の事業概要

当校は、平成 21 年 3 月の設立以来、少子高齢化、医療の高度化に伴う保健医療福祉分野への社会の期待、要望に応えるため、また地域医療サービスの一端を担うために、働きながら就学する 2 年課程(定時制 3 年修業)の看護専門学校として、より質の高い看護師の育成をすすめております。

令和 4 年度は、学生在籍者 3 年生 26 名、2 年生 27 名、1 年生 27 名、合計 80 名(うち、前後期休学者 3 名)に対して、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつ、所定のカリキュラムを実施いたしました。オミクロン拡大に伴い、コロナ陽性者・濃厚接触者が散発しましたが、重症者はなく、出席停止期間中のオンライン配信や補習等によって学習機会を確保しました。

令和 5 年 3 月、ご来賓不在として、第 12 回卒業式を行い、25 名が卒業しました。うち 24 名が、第 112 回看護師国家試験に合格し、合格率は 96.0%で全国平均 95.5%を上回りました。

また、広報・学生募集活動では、コロナ第 7 波と 8 波の間に准看護学校への訪問を実施し、東京都近郊に加え、青森と九州地区の計 34 校を訪問しました。一方、進学サイト業者への掲載は、確度の低い 2 社を中止し 2 社に絞りました。また、学校説明会は、来校及びオンライン(ZOOM)参加を併用して当初計画のとおり年 4 回開催し、資料請求件数は昨年比に減少しましたが、参加者は 79 名(前年 70 名)で前年比 1 割超増加しました。

入学試験は、推薦入試 2 回、一般入試 3 回の計 5 回を告知して実施しました。推薦入試(一期、二期)は、14 名合格(前年 11 名)、一般入試(一～三期)では 21 名合格(前年 16 名)、計 35 名を合格としましたが、辞退者が 3 名あり、令和 5 年度新入生は 32 名(前年 26 名)となり、定員 40 名の 8 割となりました。

2 当該年度に行った主な事業

(1) 令和 4 年度の履修単位(時間)

令和 5 年 3 月 31 日現在

学年		基礎分野	専門基礎分野	専門分野 I		専門分野 II		統合分野		計	教科外時間
				講義	実習	講義	実習	講義	実習		
1 年生 (14 期生)	計画	5 (135)	6 (165)	8 (210)	0	5 (150)	0	1 (30)	0	25 (690)	68
	実施	5 (135)	6 (165)	8 (210)	0	5 (150)	0	1 (30)	0	25 (690)	58
2 年生 (13 期生)	計画	1 (30)	7 (165)	1 (30)	2 (90)	10 (300)	2 (90)	2 (60)	0	25 (765)	70
	実施	1 (30)	7 (165)	1 (30)	2 (90)	10 (300)	2 (90)	2 (60)	0	25 (765)	60
3 年生 (12 期生)	計画	2 (60)	1 (15)	0	0	0	8 (360)	4 (120)	4 (180)	19 (735)	52
	実施	2 (60)	1 (15)	0	0	0	8 (360)	4 (120)	4 (180)	19 (735)	36

(2) 令和4年度の学生の動向

()内は男性で内数

学年	入学時期	年次	年度当初在籍者数			年度末在籍者			
			在籍	内訳		内訳			
				入学生・ 進級生	過年度生	休学	退学	留年	卒業・ 修了生
12期生	H31 (R1) 年度	1年次	28(3)	23(3)	5(0)	3(0)	4(0)	0	24(3)
		2年次	27(3)	22(3)	5(0)	2(0)	0	2(0)	25(3)
		3年次	26(3)	21(3)	5(0)	0	1(0)	0	25(3)
13期生	R2 年度	1年次	26(5)	26(5)	0	0	0	1(0)	25(5)
		2年次	27(5)	25(5)	2(0)	1(0)	1(0)	2(0)	21(3)
		*3年次	23(5)	21(5)	2(0)	0	—	—	—
14期生	R3 年度	1年次	27(5)	26(5)	1(0)	1(0)	2(0)	0	24(5)
		*2年次	27(5)	24(5)	3(0)	0	—	—	—

注) *は、令和5年4月現在の在籍者数を表す。

尚、N期生の休学生、未修了生は、前年次に留まるため N+1 期生に換算する。

(3) 令和4年度 広報及び学生募集活動実績

- 1) 学校案内パンフレット、ホームページの内容一部改訂
H28(2016)年度刷新後の内容を一部見直し年次改訂を実施した。
- 2) 学校説明会(4回/年：4日間午前・午後)、見学・相談会(平日及び土曜日)の開催
説明会、見学・相談会のオンライン(ZOOM)参加実施
- 3) 学校訪問 ... コロナ第7~8波間に、関東、青森、九州地区の34校訪問
- 4) 准看護学校現役生の推薦入学試験受験促進 ... (関東以遠)旅費全額負担
(受験時半額、入学時半額を負担)；該当者名(負担額：千円)
- 5) 厚生労働省「専門実践教育訓練制度」…当年度卒業生要件適合により次年度申請
- 6) 文科省「高等教育修学支援制度(高等教育無償化)」対象校…認可継続

(4) 令和5年度生(第15期生)の入学状況

1) 応募・受験・合格及び入学生

区分	一学年 定員	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	備考
総数	40名	36名	35名	35名	32名	合格者の 3名辞退
男子(再掲)	—	5名	5名	5名	5名	

(5) 第 112 回看護師国家試験受験結果

1) 当校の結果

区分	卒業生数	受験者数	合格者数	合格率
新卒(12期生)	25名	25名	24名	96.0%
既卒 ()内学校経由	—	4名 (0名)	3名 (0名)	75.0% (0%)

<参考> 第 112 回看護師国家試験結果(全国) / 当校の全体合格率 93.1 %

区分	出願者数	受験者数	合格者数	合格率	全体合格率
新卒	59,290名	58,911名	56,276名	95.5%	90.8%
既卒	5,414名	5,140名	1,876名	36.5%	

2) 国家試験対策

- ① 国家試験対策担当(教員・学生委員)設置、チューター制による個別弱点克服指導
- ② 模擬試験は3年次に6回の業者模試、うち1回は大会場での受験を経験
- ③ 補講は、夏季・冬季 計 170 時間を計画し、計画どおり実施
- ④ 学外の国試対策短期講習会へ9名が参加

(6) 学校評価 . . . 別紙参照

(7) 令和4年度の研修実施状況

研修項目	研修内容	
教育技法	<<学習会>> 教員各自の教育・学習指導上の検討会 ① 看護技術デモンストレーション ② 教材・教具の使用法や教材作成 ③ 改正カリキュラム概要勉強会	
	<<トピックス>> ① 担当科目の学会参加 ② 学会参加者の報告会 ③ 特別講演；三遊亭 遊喜 師匠 (延期交流会と兼ねて実施) ④ 卒業講演；福山 幸子 講師 (さがみはら訪問看護ステーション結) 「専門看護師と共に考える家族支援の実践」	
臨地研修	看護の現場感覚を養う現場研修	1日～5日

Ⅲ 財務の概要

令和4年度の当校の財務状況は、3年連続して新入生が20名台となり、学生在籍数が80名、総定員120名の2/3となったことから学生納付金が大きく減少し、前年度からの繰越資金も10百万円まで減少していることから、医療法人慈誠会からの寄付金を35百万円としていただくことで、ギリギリの運営という厳しい状況となった。令和5年度の新入生は32名となり、次年度以降、挽回を図る。

また、コロナ禍の影響としては、臨地実習の一部中止や学校訪問の自粛により支出減となるが、前年に比べて再開もあり減少額は少ない。一方、追加の補助金・助成金は無く、学生募集面でのマイナス影響が懸念される。

令和4年度の資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表についての概要を以下に記す。

1. 資金収支計算書

令和4年度の収支に係る在籍者は、前年度に比べ4名減の76.5名、新入生(14期生)は前年と同じ26名(前年±0)となり、学生・生徒等納付金収入は74.2百万円(前年比△2.9百万円)、寄付金収入は、先のとおり(医)慈誠会からの寄付金35.0百万円(同+5百万円)をいただいたが、一般寄付が1.0百万円減少し、前年+4.0百万円となった。補助金は、私学財団助成金が未承認となり、高等教育支援、省エネプログラム助成金を合わせて14.4百万円(同△0.4百万円)。ただし、高等教育修学支援交付金1.99百万円は、奨学費支出＝学費減免として収支相殺となる。

雑収入を加えた収入計は、128.0百万円(同+0.9百万円)となった。

また、前受金収入として、令和5年度新入生(15期生32名)及び入学辞退者1名からの入学金、前期授業料4名分があり、前受金収入は9.8百万円(同+3.0百万円)、支出科目と相殺されるその他収入は31.7百万円(同△4.5百万円)、資金収入調整勘定は△6.8百万円(同△0.1百万円)となり、上記収入の小計は162.7百万円、前年度繰越支払資金10.2百万円を含めた収入の部合計は、172.9百万円(同△6.6百万円)となった。

支出について、人件費は、教員2名の身分変更及び賞与減により前年に比べ5.7百万円減の102.7百万円。教育研究経費では、電気代の大幅アップによる光熱水費の増(前年+1.0百万円)、新カリキュラムに伴う印刷製本費の増(同+0.4百万円)、臨地実習一部再開による報酬委託費の増(同+0.4百万円)などが増加要因となり、計19.2百万円(同+2.3百万円)となった。

また、管理経費は、ホームページ刷新延期を補うため進学サイトの利用増による広報費の増加(同+0.1百万円)、学校訪問一部実施による募集費の増(同+0.1百万)等が増要因となる一方、コピー機のリース完による賃借料の減(同△0.6百万円)等があり、計5.8百万円(同△0.3百万円)となった。

設備・図書等については、学生パソコンの更新を行い、図書を含めて、計6.4百万円(同+3.8百万円)、ただし、パソコンについては4年リース払いのため、資金支出調整勘定にて調整し、資金支出調整勘定は△12.1百万円(同△3.5百万円)となり、上記の支出の小計は、162.2百万円(同△7.1百万円)となる。

結果、当年度資金収支は+0.5百万円となり、次年度繰越支払資金は、10.2百万円から10.7百万円へとわずかながら増加した。

補正予算に対しては、在校生手数料、授業料の前受金の収入増、人件費の減、収支相殺科目での金額想定差違があり、翌年度繰越金は予算値+3.1百万となった。

2 事業活動収支計算書

令和4年度収入は、学生総数・入学者数の減による学生納付金の減収及び資金収支での繰越資金の減少分に対して、(医)慈誠会寄付金を増額(前年+5.0百万円)していただき、収入計は前年+0.8百万円の128.0百万円となった。

教育活動支出については、前述のように人件費が102.7百万円(同△5.7百万円)。

教育経費及び管理経費に関してはそれぞれ減価償却費を含めて、教育経費が、38.9百万円(同+3.8百万円)、管理経費が6.7百万円(同△0.3百万円)。

教育活動支出の計は、148.2百万円で前年に比べ2.2百万円減少した。この支出には、20.5百万円の減価償却費を含んでおり、減価償却費を除く支出は、127.7百万円となる。

以上より、教育活動収支は、△20.2百万円(128.0-148.2)の支出超過(赤字)となるが、前年比+3.0百万円、また、減価償却費を除くと+0.3百万円となる。

なお、教育活動外収支(受取利息)、特別収支額(図書除却)は金額が少額であるため、教育活動収支がほぼ全体収支となる。

また、基本金組入額は、学生用パソコン更新に伴い、除却による基本金取崩額が組入額よりも多く4.9百万円の取崩しとなり、当年度収支差額は、△15.3百万円の支出超過(減価償却含む)となった。

翌年度繰越収支差額は、前年度末の繰越収支差額 △302.4百万円に今年度分を加え、△317.7百万円となる。

3 貸借対照表

(1) 資産の部

有形固定資産は、学生用パソコン43台及び図書等6.4百万円を取得したが、建物と機器備品を合わせた減価償却費が20.5百万円あり、前年に比べて△14.1百万円の736.4百万円となった。また、流動資産は、現金預金が前年に対して0.5百万円増を含めて11.0百万円、資産の部合計は747.4百万円(前年△13.6百万円)となった。

(2) 負債、基本金及び繰越収支差額の部

固定負債は、パソコンリースの長期未払金2.7百万円、流動負債については、令和5年度入学金及び授業料等前受金の増等により、19.9百万円(前年+3.9百万円)となり、負債の部合計は、22.6百万円(前年+6.6百万円)。

基本金は、4.9百万円減の1,042.5百万円、繰越収支差額は、支出超過額が15.3百万円増え、累計で△317.7百万円となり、純資産の部は、724.8百万円(同△20.2百万円)となる。

以上